

表紙制作者

東京都・
私立かえつ有明中・高校
3年生
伊藤詩奈さん



高校生との対話で描く

私たちの学校
これからの学校



聞き手

VIEW21 編集部
統括責任者
柏木 崇

1998年4月号から生徒と教師の写真で飾られてきた本誌表紙。2020年6月号からは、臨時休業という想定外の状況下で、学校での学びの価値を捉え直した生徒のアート作品の力を借りて、引き続き、生徒と教師の関係を描きます。

臨時休業中、ふと学校のウェブサイトを見ていた時に、この写真が目にとまったという。伊藤さんが学校という場に求めていたものが、この写真に凝縮されていたのだろう。



友人と協力して臨時休業中に様々な人にオンラインインタビューを行い、その様子を動画投稿サイトで公開した。



高校で学んだ「対話」が私を変え、新しい世界を創った！

柏木 今号の表紙の絵として、生徒と先生が話をしている様子を描いてくださいましたが、このシーンを描こうと思った理由から教えてください。

伊藤 モチーフは、昨年度の学校案内の中の写真です。生徒が熱心に話すのを先生がじっと聞いている情景は、学びの中で「対話」を大切にしている私の学校を象徴していて、その写真がとても気に入りました。場所の設定は、落ち着いて話ができる屋上庭園に変えて、マスクもせずに対話していた頃を懐かしく思いながら描きました。

柏木 対話は、伊藤さんにとって自身の高校生活を語る上で欠かせないものなんですね。

伊藤 学校には、対話の大切さや手法を学ぶ授業があるのですが、実は最初のうちは、対話について学ぶ必要性を私はあまり感じていませんでした。でも、プロジェクト型の探究学習などを通じて、対話によって多くの気づきが自分の中に生まれることを実感し、想像力と創造力を発揮するためには、自分をメタ認知する他者との対話が必要だと分かったのです。高校2年生の時には、自分を変えてくれた対話を、多くの人に体験してもらえる仕組みをつくりたいと考えて制作した、「子どもの想像・創造力を育てる絵本」が次世代クリエイター向けのビジネスコンテストのグランプリに選ばれました。

柏木 すごい！ 充実した高校生活ですね。

伊藤 ただ、コンテストに出たことで満足してしまって、臨時休業中の初めの頃は自宅でぼんやり過ごしていたんです。でも、「こんなことでは駄目だ」と気がついて……。それからは、起業家やクリエイターなど、自分たちが会いたい人にオンラインインタビューをして、それを中学生・高校生向けに発信する活動を友人と始めました。

柏木 臨時休業という困難な状況下で、伊藤さんを新たなチャレンジへと突き動かしたのも、他者との対話への欲求だったんですね。

伊藤 学校に行けなくなって分かったことは、学校は「協働」する場だということです。知識を身につけるといって言えば、オンラインで十分です。でも、学校に行けば他者との協働が生まれますから、自分1人で完結しかけたものがさらに広がったり、深まったりしますし、他者の反応やその場の空気感を感じ取ることで、思考が思わぬ方向に展開していくこともあります。対話の力で社会をよりよく変えていくために、対話を通じた創造についての研究蓄積がある大学に進学し、高校時代の学びを発展させたいです。

柏木 伊藤さんと話す中で、これからの学校を考える上では、「対話」が欠かせないキーワードになると改めて感じました。素敵な対話の時間をありがとうございました。